

# 特別支援教育だより



## 学校見学会、ありがとうございました！



早いもので一学期もわずかとなりました。梅雨明けが待ち遠しい日々が続いています。

6月21日の学校見学会には、各保育所、園・学校・関係機関より90名近くの方の参加をいただきありがとうございました。当日は、公開授業、施設見学の後、質疑応答と進めさせていただきました。質疑応答では「学校徴収金について」「スクールバスについて」「進路について」「授業内容や教育課程について」等々出されました。事前にも多くの質問をいただき、限られた時間の中でしたが、皆さんがどの分野の話題に関心をお持ちかを知ることができました。これからも、本校のことを地域の皆さんに知っていただく機会として、見学会を続けていきたいと考えています。

公開授業体験については小中学部で実施しています。このたよりで予定をお知らせしていますので、ぜひご活用ください。高等部につきましてもご相談ください。

また、この見学会に限らず、随時、見学や質問、教育相談なども対応させていただいています。特に個々の事例については教育相談でお話を聞かせていただければと思います。いろいろな場面で活用していただけたらと思いますので、どうぞよろしく申し上げます。

### 今後（夏季休業中～10月）の予定

#### 【公開研修会】

- ・ 8月 8日（水） 公開研修会（講演会） 美旗市民センター 13:00～
- ・ 8月 28日（火） 夏の伊賀地域研修交流会（講演会） 13:00～  
美旗市民センター

\*同封の「公開研修（講演会）のご案内」をご覧ください、申し込んでください。

#### 【本校行事関係】

- ・ 7月 31日（火）、8月 27日（月） 登校日
- ・ 8月 3日（金） つばさ夏祭り
- ・ 9月 12日（水） 小学部公開体験授業
- ・ 9月 14日（金） 中学部公開体験授業
- ・ 9月 28日（金） 地域生活支援連絡会（伊賀市） 10:00～ 県伊賀庁舎
- ・ 10月 2日（火） 地域生活支援連絡会（名張市） 10:00～ 伊賀つばさ学園

講演会から・・・

7月1日(日)に津市で「ABA講演会」があり参加しました。聞いてきた話をもとに簡単にABAについて紹介させていただきます。

~~~~~  
【応用行動分析（ABA）について】

・応用行動分析学とは・・・行動分析学（人間を含む動物の行動がどのように変化していくのかを主に実験を使って分析）をベースに行動の変化を学習ととらえ、学習の仕組みを科学的にとらえるものです。環境を系統的に操作しつつ、適切な行動を強化しながら維持、般化させ、不適切な行動の減少、除去をはかります。心の働きを説明するものでなく、目に見える行動に着目します。応用行動分析が用いる基本原理には、「強化」「消去」「罰」の3つの原則があります。

① **強化**・・・なんらかの行動の直後にほうびとなる刺激(強化子)が与えられると、その行動は強まり以後増加します。

行動(例 冷蔵庫を開ける)+ほうび(強化子)(おやつが食べられる)  
⇒行動の増加(よく開けるようになる)

② **消去**・・・なんらかの行動の直後にほうびとなる刺激が与えられないと、その行動は徐々に減少します。

行動(例 冷蔵庫を開ける)+ほうびなし(おやつがない)⇒行動の減少(開けなくなる)

③ **罰**・・・ある行動の直後に不快な刺激が与えられると、以後その行動は減少していきます。

行動(例 冷蔵庫を開ける)+不快な刺激(怒られる)⇒行動の減少(開けなくなる)

日々の実践で子どもの良いところを伸ばそうと考えると同時に、現在起こっている問題行動の対応にどうすればいいかと考えることが多いですが、**問題行動に対処するには、消去が基本になります。**問題行動が何によって強化されているかを考えて、その強化子を与えないようにします。たとえば、自分の要求を通す・注目を浴びたい・嫌なこと、やりたくないことからの逃避などからくるかんしゃくは、結果大人が譲歩したり、声をかけたりすることで強化されていると考えます。だから、かんしゃくを起こしても譲歩せず、収まるのを待つ。という対応を取ります。他に**問題行動以外の適切な行動を強化する。消極的罰(タイムアウト)。****先行条件操作(問題行動が起こりにくくする事前の工夫)**などがあります。

「適切な行動を増やす」ということで結果的に問題行動が減ったり、問題を起こす必要がなくなるようにしていこうというのが、**応用行動分析の考え方**です。子どもが適切に行動して、学習や対人関係がうまくいったときに、周りから十分な反応が得られること、納得いく結果が目に見えることは、子どもの行動を安定させます。強化刺激を効果的にするには、「即時性(その直後にすぐ与える)」「明示性(本人にできたことをはっきり伝える)」が必要です。そして、その行動の維持、般化のためには意図的に与える強化の割合を徐々に減らしていくことが求められます。このような強化スケジュールを導入することで、強化がなくなってもその効果が持続するようになっています。

~~~~~  
編集後記

夏季休業中にいくつかの公開研修を予定しています。多くの方の参加をお待ちしています。たよりについてのご意見等ありましたら下記までお願いします。

教育支援部 山本淳子 TEL 0595-67-1108